

[ライブ・サーティ]

# Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

# 205

2014年  
7月-8月



CLOSE UP

## 第16回世界作業療法士連盟大会 第48回日本作業療法学会

OMICHI ACADEMY

第49回日本理学療法学術大会

第55回日本神経学会学術大会

OMICHI SCRAMBLE

データ分析スキルアップワークショップ

掛越科長が看護功労賞を受賞

INFORMATION

英国よりジャン・ピエール先生を招き

ボバースアプローチ上級講習会開催

森之宮病院消防訓練を実施



最優秀賞  
「Live30」  
雑誌発行の30年を記念して  
最も優秀であったことを認め、  
日本一を贈ります。  
日本出版協会

6月18日(水)〜21日(土)、神奈川県横浜市にあるパシフィコ横浜にて、世界作業療法士連盟(WFOT)・一般社団法人日本作業療法士協会・日本学術会議主催の第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会が開催されました。

## 第16回世界作業療法士連盟大会 第48回日本作業療法学会

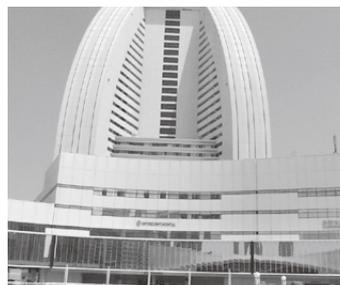
同時通訳で知識を共有、  
世界各国の参加者が活発に議論

今学会に、ポバース記念病院からはリハビリテーション部作業療法科の立松と末宗が参加させて頂きました。当日は6000名以上の作業療法士が、世界71か国から参加されていました。

今学会のテーマは、『Sharing Traditions, Creating Futures』「伝統を分かち、未来を創る」で、プログラムはWFOTプレナリーセッション、WFOTレクチャーシップ、シンポジウム(市民公開講座も含む)4題、基調講演3題、ワークショップ56題、一般演題、口述演題・スペシャルセッション

60題、その他819題、ポスター演題・座長付ポスター演題71題・その他1459題など多くの演題があり、国立大ホール、メインホール、展示ホール、メ15の会場では活発な質疑応答が行われました。参加者全員に同時通訳用トランシーバーが配られ、シンポジウムや基調講演、口述発表の各会場では英語と日本語の同時通訳ブースが設置されていました。ポスター発表の会場であった展示ホールは福祉機器展示、WFOTや各国の作業療法士協会ブース、日本文化の紹介、障害者スポーツの体験スペース等、趣向を凝らした会場になっていました。

ポスター演題「重度脳卒中患者へ感覚入力によりADLが改善した一症例〜回復期病棟での連携〜 A case of improved ability to perform activities of daily living by sensory input in a patient who experienced severe stroke」という発表を立松が行いました。症例報告であったため、



パシフィコ横浜



口述発表をする末宗

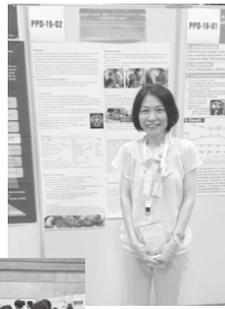


海外から参加していたOTの方々



WFOTは、4年に1回開催。日本で行われるのは初めてのことで、前回はチリ、4年後の次回は南アフリカで開催予定となっています

多くの若い作業療法士や学生から質問がありました。「病棟との連携での具体的な工夫点や注意点は何か?」「作業療法士(OT)は治療の中でどのような感覚入力を行っていたのか?」「これほど重度の患者さんが自宅復帰できたポイントは何?」等、評価の方法や治療に関する質問から対象者や家族背景に至るまで多くの質問を1時間半以上、受けました。重度な患者に向き合うことの重要性や有効性を多くのセラピストと共感できたことに、非常に感動しました。



ポスター発表をする立松



**国際学会で研究成果を口述発表、その経験を今後へつなげたい**

「指先への持続的な圧覚入力による健康者でのペグ操作の検討 The effect of continuous pressure sensory input on fingertips during peg-manipulation tasks in healthy individuals」という

口述発表を末宗が行いました。当院リハビリテーション部古澤副院長と作業療法科岡本主任が共同研究している内容の発表であり、指先にテープを巻くことで失調症状が改善したり運動学習が改善するという臨床経験について考察を深める目的で、健康人に対して行った研究について発表しました。発表は7分間、その後3分の質疑応答時間が設定されており、日本の方だけでなく海外の方からも質問や助言を頂きました。また、発表後も多くの方に声をかけて頂くなど、今後、色々なことを検討していくために非常に有意義な時間となりました。



口述発表前の末宗



シンポジウム会場



指先にテープを巻いた状態



基調講演の大江健三郎先生は、知的障害者である息子さんが作業(仕事)をするたびにそれまでの彼とは違う自分へと快復していったと話され、意味ある作業の大切さを実体験から講演されていました。海外の方も多く聴講されており、皆、先生のユーモアたっぷりの講演に引きつけられ、感動されていた様子でした。

市民公開講座では、作業療法を実際に受けられてきた脊髄損傷者2名と片麻痺者とがシンポジストでした。シンポジストの小宮山氏は「作業療法は最高のセラピーです。だって感動するでしょ!」と提唱され、

学会全体を通して、「作業療法」意味ある作業について討議されることが多く、作業療法士として今後どのように発展していくべきかを問われているように感じました。

出て一緒に働いて欲しいと訴えておられました。片麻痺者である葉山氏は回復期病棟で出会った作業療法士と初めてバスタを作った作業が彼の人生を変えたというエピソードを語られ、障害

を受けた人に必要なのは、「ここを人生を再構築する為の作業」と言われていました。

実際の体験者からこのように語って頂いたことで、OTであることに喜びと自信を取り戻すことが出来ました。また同時に、日々の業務の中で作業というものに焦点を当てて患者に向き合うことの重要性を突き付けられるような、身の引き締まる思いも感じました。

国際学会という場で発表できたことは非常に大きな経験となったことはもちろん、多くの発表の場や様々なイベントにおいて世界各国の作業療法士と出会うことができました。また、活発な意見交換や積極的な交流を通して国や言葉の壁を越えて相互に理解を深め合っている会場の雰囲気を感じられたことで、作業療法士として発展していくためのきっかけを得られたように感じています。

この学会を機に、対象者に寄り添い、一緒に感動し、人生を楽しむことができる作業療法士を目指していきたいと思えます。

(ポバース記念病院リハビリテーション部作業療法科副部長 立松さゆり、主任 末宗梓)

## 発表報告

### 第49回日本理学療法 学術大会



森之宮病院  
リハビリテーション部  
理学療法科主任  
**鳥瀬 義和**

#### 脳性麻痺児における 神経発達学的治療の無作為化 比較試験による研究結果を発表

日程：5月30日～6月1日  
場所：パシフィコ横浜

5月30日～6月1日まで、横浜で行われた第49回日本理学療法学会大会で「脳性まひ児に対する神経発達学的治療は治療者の経験によって児の機能改善に差を及ぼすのか—無作為化比較試験による検討—」を発表させて頂きました。

この研究は、脳性まひ児に対する神経発達学的治療(ボバース・アプローチ)は、セラピストの経験や熟練度で児の機能改善に差がでるかという事を、対象児を無作為にNDT群(経験年数20年以上のもの)が治療する群)と対照群(経験年数が5年以下のもの)が治療する群)とに分け、脳性まひの運動能力評価で一般的に用いられる粗大運動能力尺度(GMF)において比較するというものです。結果としては4ヶ月の入院期間において全対象児は有意に機能改善しているが、2群間においてはその機能改善に明らかな差が認められなかったということでした。

この演題発表には多くの方に興味を持って頂き、小児理学療法分野以外の方からの質問も頂きました。GMFM

という評価は粗大運動能力を計るものである

ので、脳性まひ児において短期間の理学療法においてその結果に差があることが困難ではないという意見を多数頂きました。それ以外にも全対象児が機能改善しているという事は森之宮病院では教育体制が確立されており、経験年数に関係なくしっかりと治療が行えることではないかという大変有り難い意見も頂きました。

小児理学療法分野において無作為化比較試験を用いた研究は他になく、また成人の分野においても実施されている研究は少ないのが現状です。しかし私たちが行っている治療の効果を証明していくには今後にも必要なものだと思います。

## 発表報告

### 第55回日本神経学会 学術大会



森之宮病院診療部  
神経内科  
**河野 悌司**

#### 脳卒中における脳波の有用性を 共同研究の結果として発表

日程：5月21日～24日  
場所：福岡国際会議場・福岡サンパレス・福岡国際センター

福岡で開催された第55回日本神経学会学術大会に参加し、「虚血性脳卒中患者における脳波位相同期と臨床指標の関連」というテーマで発表させて頂きました。脳卒中では部分的な脳損傷でも、健側半球を含め脳の広い範囲に影響が及ぶことが知られています。脳波検査

の結果が、脳卒中患者さんの一部の臨床指標と相関を示すことは報告されていますが、ADLスケール(Functional Independence Measure: FIM)や Barthel Index: BI)など)と脳波から得られたデータとの有意な相関関係を示すことは困難でした。

今回我々は、理化学研究所の共同研究者と共に、新しい解析手法である半球間位相同期(Inter Hemispheric Phase Synchrony: IHPs)のデータを用いて、IHPsとADLを含めた様々な臨床スケールとの相関を検討したところ、良好な相関を示すことが明らかになり、その結果を発表しました。

日本では、脳卒中における脳波の有用性は一般的ではなく、逆にいえばその位、新規な結果であったとも言え、発表後に色々質問も頂きました。今後もデータを積み重ね、森之宮病院発の新しいバイオマーカーとしての脳波位相の有用性をアピールしていきたいと考えております。

## 受講報告

### 看護協会研修



ボバース記念病院  
看護部3階病棟主任  
**宮里 佳奈**

#### 一般病棟における クリティカルケア研修に参加して

日程：5月15日～16日  
場所：大阪府看護協会

大阪府看護協会にて一般病棟におけるクリティカルケア研修(急性・重症患

者看護)に参加し、遭遇しやすい障害の病態生理と看護ケアについて知識を深める事ができました。

1日目は、疾患のアセスメントについて講義を受けました。急変の中でよくみられる症例としては、呼吸器障害が多いと言われています。高齢者の多くは嚥下反射障害により食物や唾液を誤嚥しやすく、肺炎は治療できても誤嚥が繰り返されれば再燃する可能性は高くなります。パルスオキシメーターを使用して状態観察を行います。機械を装着し数字を読み取るのは誰でも行う事ができるため、つい出た数字を安易に記録に残してしまいがちです。機械に表示される数値だけを観察するのではなく、頭から足先まで実際に患者の身体に触れながら症状の把握を行う、フィジカルアセスメントの重要性を再認識しました。

2日目は、患者・家族との関わりについて説明を受けました。生命危機状態にある患者・家族のケアとして、まずはストレスを理解しなければなりません。看護介入では、心の痛みを理解し緩和する事を考えていきます。大切な事は、患者・家族のニーズに応じた支援をしていく事だと理解できました。

今回の研修で学び得たことを伝えるため、全看護師・セラピストを対象に研修会を実施しました。講師として人に伝える難しさを実感し、また、研修だけで終わらないよう指導していく事も今後の課題だと思っています。中間管理職として、指導・助言する立場として、病棟の機能的役割を遂行できるよう努めていきたいと考えています。

平成26年度上半期  
昇進者研修会

ヘルスケア分野を取り巻く  
環境変化とこれからの  
管理職層の対応

平成26年度4月診療報酬  
改定の方角性を踏まえて

日程：5月16日  
場所：大道クリニック 2階会議室  
講師：天野 圓常務理事



ボハース記念病院  
リハビリテーション部  
理学療法科主任  
竹中 幸治

大道会のある城東区は、東京を除く政令指定都市の区で一番の人口密度であり、ボハース記念病院はヘルスケア分野で恵まれた環境に位置していること、地域病院として地域のニーズを把握し、対応していくことで優位性を活かせる立場にあることが分かりました。

成功した組織の共通項は、①他から謙虚に学ぶ、②自己満足しない、③適時の確な意思決定、④改革、競争に摩擦を恐れないという4つ。主任になり、科員から相談を受けることが多くなりましたが、タイムリーで的確な意志決定を行えるようにならなければならぬと感じました。意見に反対するだけでなく、対策を出せるように常に考えを持つこととの必要性も教えて頂きました。

さらに講義では、わが国の医療制度、

医療保険制度の現状と将来展望を他の先進国と比較してわかりやすく教えて頂きました。特に、共助・公助が当たり前と感じている我々からすると、イギリスのNHSとの違いは大変な驚きでした。今後重要となる地域包括ケアシステムでは自助・互助・共助・公助が言われており、日本でも自助・互助を意識した取り組みが必要と言われていますが、現状からすると難しい課題であると思われました。また、日本の病院の大半が赤字経営であることなど、医療業界の厳しい状況も教えて頂きました。

「大道会の経営方針について」では、法人全体・理念・ビジョンの基本は不変であることと、人材育成に力を入れており、医療収益の1%を投資し、組織の課題解決スキル強化などの研修を行っているということも教えて頂きました。

さらに、良い病院、選択される病院は医療の質と経営の質のバランスが優れているとのこと。医療の質の中には、アメニティ的要素が含まれ、古い、狭い、汚い、暗いではダメであると言われていました。施設・機器を丁寧に綺麗に使うことや整理整頓など、日々、我々が簡単に取り組めることが病院の質向上につながることを学びました。経営の質についても、職員へ還元するには、利益がないと何も出来ないため、まず一人ひとりが日々の業務にしっかりと取り組むことが重要であると再認識しました。

今回、医療情勢・当法人について、管理職に求められるものなど、幅広い内容について講義して頂きました。これらの内容を今後の業務で意識して取り組んでいきたいと考えます。



森之宮病院  
リハビリテーション部  
理学療法科主任  
滝田 有香

今回の研修では、次の5つについて天野圓常務理事より講義がありました。

5つの内容

- I 我が国、医療制度、医療保険制度の現状と将来の展望・先進国の比較
- II 「社会医療法人」の創設の主旨と使命・義務
- III 当会の経営方針
- IV 管理職に求められる5大役割・4大意識と4大技能
- V 良い病院、選択される病院とは

I. 現在、日本では、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進んでいるため、社会保障制度の見直しが急務。その中で、今年度の診療報酬改定に伴い、病院から地域・在宅へ移行していく背景として地域包括ケアシステムが提唱されたことを学びました。

II. 社会医療法人は、公益性を担保する条件を満たし、都道府県知事の認定を受けることで、比較的幅広い事業から得られる収益を病院などの本来事業へ充てることができること。これにより医療の非営利性を保ったまま、経営の透明化と効率化、地域医療の安定化を目指す制度であるということも学びました。また、5つの事業(救急・周産期・災害・僻地・小児救急)のうち1つを担うことなど、様々な条件をクリアした中で47000法人中2200法人のみが認定されていると知り、その数少ない認定を当法人が受けているという

意識を持つことも大切だと思いました。

III. 大道会は、人材育成に医療収益の1%を投資する方針であると知り、また今年で60周年を迎え、半世紀以上にわたって健全経営を継続する実績は他に類をみないことも知り、改めて当法人の人材育成方針の重要性を感じました。

IV. 5大役割とは、①部門(職場)統括、②部下の掌握育成、③業務推進、④企画、開発、研究、⑤上司補佐。4大意識とは、①顧客意識(利用者)、②責任意識(経営参画)、③改善意識(問題)、④原価意識(メリハリ)。4大技能とは、①経営管理(計数)、②技術的技術(医療分野の特徴)、③課題解決、判断技能(管理職にとって最も重要)、④人間管理技能(部下・同僚・上司・他部門)のことであると学びました。その中で一般企業とは異なり、医療従事者では、技術的技術は高いが、課題解決能力や企画能力が低下していることが多いとのことでした。

V. 医療の質(技術的要素、人間関係的要素、アメニティ要素)と経営の質(患者・地域社会への還元、再生産、職員への還元)といった2要素のバランスが優れていることが必要であることを学びました。私自身、今後日々学ぶことや、真摯に受診者に向き合っていく姿勢を忘れず、業務に携わっていきたくて改めて思いました。

今回の研修では、医療業界の現状や大道会の変遷、経営理念、初めて管理職になる者の心構えなどについて、多くのことを学ばせて頂きました。今後、学んだことを主任として、科員や病棟との関わりの中で活かしていきたいと思

法人全体

## データ分析スキルアップ ワークショップ

大道会では若手職員を対象に「データ分析スキルアップワークショップ」を行っています。平成25年10月から全20回、約1年間の研修です。

研修の前半は分析ツールについて学びました。例えば、物事をもれなく、ダブりなく考えるツール「MECE(ミッシェー)」や、問題の原因や解決策を階層的に考えるツール「ロジックツリー」などを学びました。

研修の後半は、実践的にデータを分析するために、現在進行中の「経営戦略策定プロジェクト」と連携して、小児リハ患者・家族のニーズや小児外来リハの待機問題などを、前半の研修で学んだツールを用いて分析しました。その後、院内スタッフに対するインタビュー調査や小児リハ患者・家族に対するアンケート調査の設計を行いました。最終的にそれらの成果を経営戦略策定プロジェクトのメンバーに報告しました。

このようなプロセスを経験する中で、研修の目的である「根拠に基づいた意思決定」の第一歩になったのではないかと感じる事ができました。今後は研修

STEP1	STEP2
<p>2013年</p> <p>STEP1 分析の基礎</p> <p>DAY1 10/26(水) データ分析の基礎</p> <p>DAY2 10/30(日) データ分析の基礎</p> <p>DAY3 11/3(木) データ分析の基礎</p> <p>DAY4 11/7(月) データ分析の基礎</p> <p>DAY5 11/10(木) データ分析の基礎</p> <p>DAY6 11/14(日) データ分析の基礎</p> <p>DAY7 11/17(水) データ分析の基礎</p> <p>DAY8 11/21(日) データ分析の基礎</p> <p>DAY9 11/24(水) データ分析の基礎</p> <p>DAY10 11/28(日) データ分析の基礎</p>	<p>2014年</p> <p>STEP2 データ活用</p> <p>DAY11 12/1(月) データ活用</p> <p>DAY12 12/5(金) データ活用</p> <p>DAY13 12/8(月) データ活用</p> <p>DAY14 12/12(金) データ活用</p> <p>DAY15 12/15(月) データ活用</p> <p>DAY16 12/19(金) データ活用</p> <p>DAY17 12/22(月) データ活用</p> <p>DAY18 12/26(金) データ活用</p> <p>DAY19 12/29(月) データ活用</p> <p>DAY20 1/2(木) データ活用</p>



データ分析スキルアップワークショップのスケジュール

ワークショップの研修風景

で学んだデータ分析力を現場の課題解決に活かすとともに、他の職員にもデータ分析の重要性や活用方法を伝えていくことで、事実や数字などの根拠に基づいた事業企画や業務遂行に貢献できればと考えています。

(大道会本部管理部 大平剛士)

ボバース  
記念病院

## 七夕会コンサートを開催しました

皆さん、昨年の夏は非常に暑かったですね。夏といえば、そう!!七夕会ですね。

先日、ボバース記念病院で七夕会が盛大に行われました。今年、城東区を中心に活躍されている「チームゆかり」が来て下さいました。「チームゆかり」は、ソーラン節をはじめ、アンコールを含む4曲を踊って下さいました。利用者の方々は、手拍子をしたりサビと一緒に腕を挙げ

たりと多いに盛り上がりました。利用者の方々がよく知っている曲もあり、中には口ずさみながら踊る方もいたくらいでした。

また、介護福祉士の方々は、浴衣を着て会を盛り上げてくれ、非常に華やかなひと時になりました。私も、今回の七夕会で元気を頂きましたので、今年も夏バテ知らずになりそうです。

(ボバース記念病院作業療法士 松本安弘)



浴衣姿でイベントを盛り上げます



「チームゆかり」の皆さんによる南中ソーラン節の踊り

森之宮病院

## 恒例のむし歯予防劇を 小児病棟で開催しました

6月17日、バイキンマンが森之宮病院に現れました。

今年バイキンマンが歯磨きしないで寝てしまい、むし歯になってしまいました。イタイ!イタイ!と泣くバイキンマンを見て、子どもたちもハラハラドキドキ!さあどうなる...

しぶしぶ歯医者さんに行ったバイキンマン、キラキラ銀歯をつけてもらいようやく痛みもなくなりました。最後に、むし歯にならないために子どもたちとア

ンパンマンが3つのお約束をしました。①好き嫌いせずに残さずなんでも食べよう。②よく噛んで食べよう。③食べたら歯を磨こう。

6月4日はむし歯予防デー。毎年、森之宮病院の歯科衛生士と歯科衛生士養成校の臨床実習生で啓発運動に取り組んでいます。子どもたちに分かりやすく親しみやすい内容になるように工夫しています。今年も仕事の合間を見つけて練習し、セリフ



スタッフによるアンパンマン劇

も皆で考えました。当日まで緊張しましたが、子どもたちの笑顔を見て、やって良かったと思えました。これからもむし歯予防のために取り組んでいきたいと思えます。

(森之宮病院歯科診療部 歯科衛生士 三浦京子)

## 掛越科長が 看護功労賞を受賞しました

ボバース記念病院回復期リハビリ病棟の掛越科長が、5月10日、ナーシングアートにて看護功労賞を受賞しました。この賞は、大阪府下で看護業務に20年以上従事し、保健医療の向上に尽力された方に贈られる名誉ある賞で、これまでに大道会の看護管理職の多くの方が受賞されています。掛越科長は大道会に入職して約25年、ボバース記念病院

一筋に勤め、リハビリ看護に専念。平成21年には回復期リハビリ認定看護師の資格も獲得しました。科長はおだやかな性格ですが、リハビリ看護を語ると熱いものがあり、実技指導の場面でも知識と実践に裏付けされた適切な指導を行い、ボバース看護部では大きな存在です。今後は、病棟責任者としての責務を担うとともに、リハビリ看護の質の向



大道会長と掛越科長との記念撮影

上と後進の指導に全力投球して頂けるよう期待しています。ボバース記念病院看護部部長 白樫貴美子

頑張っている職員に注目!

ただ今、奮闘中

#45

## 介護福祉士として

ボバース記念病院看護部3階病棟

森内 道代 科員

ボバース記念病院において、平成25年9月に介護福祉士会を発足しました。

介護福祉士会の目的は、病院における介護福祉士としての役割を通し、資質を高めることです。そこで、大阪介護福祉士会に加入し、専門性と役割について学び、自病院での活動に活かせるように努めています。月1度の介護福祉士会での協議、活動内容としては、療養環境における設定や業務マニュアルに沿った方法で効率よく行うには、どのようにすればいいのか、また接遇について事例を通して勉強会の企画を行い、助手会にて実施しています。

「患者さんとふれあう会」では、季節を感じて頂く作品としてはり絵・兜などを一緒に作成しています。「懐かしいわ」「昔、こんな作ったわ、楽しいわ」など、患者さんの声を聞きます。今後は、イベントにも参画し、私たち介護福祉士ができることを積極的にしていきたいと考えています。



18世紀半ば、スウェーデンの植物学者カール・フォン・リンネが『哺乳類』という言葉葉を提唱しました。多くが胎生で子を乳で保育する特徴をもつ生物群を乳腺mammary glandに因み哺乳類mammaliaと名付けました。哺乳類の赤ん坊は、出生直後から、教わったことの無い吸綴(きゆうてつ)という驚くべき本能で成長します。

### Medical Doctor's Voice #62

#### 乳房チェックに “別の視点”も参考に

森之宮病院診療部  
乳腺・内分泌外科

長田 陽子



へ広がり血管やリンパ管内に入り他臓器へ転移がおこります。早期乳がん(がんが組織外に広がる前の1期以下)は2cm以下のしこりですが初期にはほぼ無症状です。従来のセルフチェックの推奨と定期検診に新たな留意点を合わせ、今後も森之宮病院でより良い診療を継続したいと考えています。

トロゲン)、性周期、妊娠、年齢などと深い関係があります。一方、無症状で発見される早期乳がんが近年増加しています。がんが小葉や乳管内に留まるものを非浸潤がんといい、治療をすれば一般に95%以上の治癒が見込めます。しこりの形成はまだなく、マンモグラフィーで石灰化という微小変化を捉え診断に至るものでも、問題となる石灰化1つの大きさは50〜200μm位で毛髪1本の太さ以下です。これより進行したものの、浸潤がんでは癌細胞が増殖してしこりを形成、小葉や乳管からはみ出し周囲組織

## 英国よりジャン・ピエール先生を招き ボバースアプローチ上級講習会開催

5月26日(月)～30日(金)、森之宮病院で英国よりEBTAシニアインストラクターである、ジャン・ピエール先生をお招きして脳性まひに対する上級講習会が開催されました。この講習会には、紀伊克昌名誉副院長が指導者として、木野本誠理学療法科科長がアシスタントとして、ボバース記念病院理学療法科・中窪美佐緒科長が通訳として参加し、全国から理学療法士、作業療法士計20名が受講しました。森之宮病院からは、堅田志保理学療法科科長、肩荷絵美作業療法科主任、及び濱本が受講生として参加しました。

ジャン・ピエール先生は、ロンドンボバースセンターで15年間、神経発達理学療法士として勤務され、シニ

アインストラクターとして、ボバース講習会でコースリーダーとしてご活躍された経歴があります。今回は初来日ですが、異文化を積極的に楽しまれていました。

講習会のテーマは“Advanced Movement Analysis and Treatment Skills” 脳性まひ児の分類に則した主要問題点に基づく運動分析と問題解決について、講義・グループでの討議と実技・治療実習・ワークショップ・デモンストレーションなどの盛りだくさんな内容を通して理解を深めていく事ができました。ジャン・ピエール先生が、治療の中で遊びや活動を有効に展開する事で、子ども達に多様な感覚入力を促通し、子どもが自発的に問題解決できるように治



ジャン・ピエール先生(左)と紀伊克昌名誉副院長

療を発展された事に感銘を受けました。受講生は非常に熱心で、それぞれが日々の臨床経験をもとに討議を行い、治療のアイデアなどを意見交換しました。今回の講習会で得られた知見を臨床場面に応用するとともに、職員にも伝達していきたいと思

います。  
(森之宮病院リハビリテーション部 作業療法科 濱本多紀)

## 森之宮病院消防訓練を実施

5月13日(火)午後2時から、自衛消防訓練を実施しました。

火災等が発生した場合の消防署への通報や消防隊が到着するまでの間、職員が消防設備を使用して病院利用者の人命保護と火災の延焼を防止することを目的とし、城東消防署立ち会いのもとで、78名の職員が参加しました。

勤務者の少ない夜間帯(21時)に6階東病棟の汚物処理室から出火したという想定のもと、消火器・屋内消火栓を使用した初期消火、火災専用電話による消防署への通報、28名の模擬患者の避難誘導訓練を行いました。

誘導訓練終了後は、起震車を使用して、阪神大震災・東日本大震災の揺れを再現し地震を模擬体験。体験した職員からは、「机にしがみついているだけで必死だった」「職場でこんな地震が発生したらどうなるのだろう」という声が聞かれました。

今後、発生するといわれている東南海・南海地震では震度6強クラスの地震が想定されています。地震を模擬体験することで震災に対する知識が深まったこと、防災意識を高めることができたことから、非常に有意義な訓練となりました。

消防訓練を年2回、実施しています

が、今後もこのような訓練を継続し、入院患者や、病院を利用される方々の安心と安全に努めていきたいと思

います。  
(本部資材施設部主任 和田康市)

## ご寄付を頂きました

長谷川三恵子様(神戸市灘区)、武田一様(堺市西区)、藤井久吉様(大阪市城東区)よりご寄付を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

## Live30【ライブ・サーティ】 2014年7-8月号 vol.205 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人 大道会  
〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1  
TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

### ■大道会

社会医療法人大道会本部  
T EL 06(6962)9621  
森之宮病院  
T EL 06(6969)0111  
ボバース記念病院  
T EL 06(6962)3131  
森之宮クリニック(PET 画像診断センター)  
T EL 06(6981)9600  
帝国ホテルクリニック(人間ドック)  
T EL 06(6881)4000  
大道クリニック(人工透析)  
T EL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ  
T EL 06(6965)0666  
訪問看護ステーションおおみち  
T EL 06(6967)1123  
訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所  
T EL 06(6942)3737  
訪問看護ステーション東成おおみち  
T EL 06(6977)8680  
ケアプランセンター城東おおみち  
T EL 06(6964)5285  
ケアプランセンター東成おおみち  
T EL 06(4259)5311  
レンタルケアおおみち  
T EL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ  
T EL 06(6974)7388  
東成山手学園(保育園)  
T EL 06(6974)7377

●パソコン <http://www.omichikai.or.jp>  
●携帯 <http://www.omichikai.or.jp/i.cgi>

バーコードを読み取っていただく、大道会の携帯サイトにアクセスできます。



## 編集後記

今年は冷夏になると予想されていましたが、連日、猛暑日や熱帯夜が記録されるなど、蒸し暑い日が続いています。お盆休みや夏休みで遠方へお出かけされた方も多いと思いますが、この時期は熱中症に注意しなければなりません。暑い環境に居る場合だけでなく、冷房が効いた自動車内でも熱中症になるリスクがあるそうです。運転中に熱中症にかかり、意識を失って事故を起こした事例もあります。1時間に1回程度の休憩と適度な水分補給を心がけ、熱中症を予防し、楽しい夏を満喫しましょう。  
(広報推進委員帝国ホテルクリニック 企画広報部主任 坂本伸吾)